



「安見系譜」という古文書でも、交野の安見氏について伝えられています。この文書には歴史的に正確ではない部分もありますが、江戸時代にも交野に私部城と安見氏の存在感があったこと

戦国時代、私部城は重要な城でしたが、本能寺の変の頃から、戦いの舞台として登場しなくなりました。その後、江戸時代になると、私部城跡は農地として利用されるようになりました。城主であった安見氏は動乱の中、他の地に移動させられましたが、その伝承は長く地元に残りました。江戸時代に代官・庄屋を務めた北田家には、安見氏に仕えて城を守り奮戦したという、活躍を伝える文書が残されています。北田家の一家が現在も住んでいる私部の「北田家住宅」(上写真)は、江戸時代の豪壮な屋敷で、国指定重要文化財に指定されています。

### 戦国時代後の私部城と北田家住宅

が分かります。こうした伝承は「交野町史」「交野市史」などに引き継がれ、世に広く知られるきっかけとなりました。交野の地元の人々により城跡の歴史が伝えられ、農地として開発から守られ続けたことによつて、私部城の歴史は今日まで残されてきました。現在では、良好に伝えられた戦国時代の平城跡として、西日本でも貴重な場所となっています。



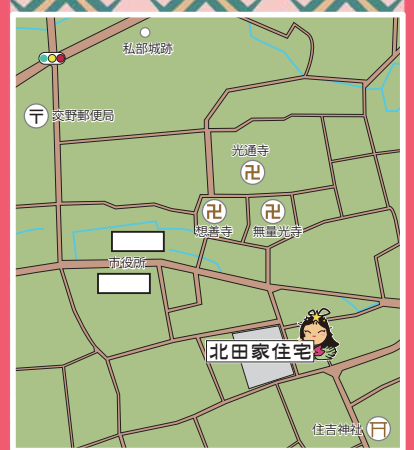
北田家住宅

おりひめちゃんが行く！

# 交野戦国絵巻

## 最終の巻

問い合わせ 社会教育課 文化財係 (TEL 893・8111)



**女の城・私部城**

「室町殿日記」や地元の古文書で伝えられる私部城の呼び方の一つとして、「後家が城」というものがあります。後家とは安見右近の死後に残された妻のことです。歴史上、右近の次に城主を務めたのは右近の右腕的存在であった新七郎ですが、後家は右近のまだ幼かった息子を支え、家中を取り仕切る上で大きな存在であったのでしょう。

**特別展「機織教室作品展」**

今回は、市内から発見された古い木綿布をもとに作成したものを展示します。また、展示室内で機織りの体験も行いますので、ぜひお越しください。

展示・体験期間 3月11日(水)～29日(日) ※月・火曜日、祝日は休館

時間 午前10時～午後5時(入室は午後4時30分まで、29日は午後4時まで)

ところ 教育文化会館(歴史民俗資料展示室)